

8. 20 広島土砂災害後の復興まちづくり支援

一山コンサルタント 正会員○山下祐一

1. はじめに（広島市安佐北区可部東6丁目の新建自治会の取組み）

平成26年8月20日、広島市安佐南区と安佐北区に集中豪雨が集中し、大規模な土砂災害が発生した。そのうち、広島市安佐北区可部東6丁目の新建自治会の災害復旧、復興まちづくりに関して「広島県災害復興支援士業連絡会(以下士業連絡会)」が支援を行い、被害を受けた住民が自分達の希望する復興まちづくりに多くの内容を取り入れることが出来た。ここではその経緯や内容について取りまとめる。

2. 「安佐北区可部東6丁目新建自治会」での相談・意見交換

災害発生後1カ月を待たずにがれき処理が進む中、一応の見通しが立った時期の平成26年9月14日(日)に、新建自治会から士業連絡会との間で、被災を受けた住民の個別相談と災害復興まちづくりのあり方についての意見交換を行った。参加者は弁護士15名、司法書士3名、技術士3名、建築士2名、社会福祉士1名他合計26名が参加した。この会は災害発生後弁護士等の士業が現地に赴き、いろいろな相談事を聞いて回ったことから実現した。

まず、個別相談件数(災害復旧)は25件、重複を含め、復旧工事と費用負担の問題12件、土砂撤去6件、り災証明6件、応急修理6件、消毒2件、保険2件などがあり、技術的な問題は民地間の擁壁の安定性に関するものであった。

次に、災害復興まちづくりのあり方については、士業連絡会と被災住民がわかれて、現状の個人の悩みなどを含めていろいろ話し合いが行われた。阪神大震災、東日本大震災後の復興に携わった経験者も交えて、幅広い意見のくみ上げを行い、今後の対応として自治会で意見を集約してまとめて市側に要望書を提出することを話し合った。ここで重要と感じたのは、被災者である住民が意見をまとめて行政側に要望すると個別に対応するより早く要望が実現できるという意見であった。



写真-1 新建自治会と士業の意見交換

3. 新建自治会の住民要望アンケート結果

災害復旧や災害復興まちづくりについて、新建自治会内で行った要望アンケートの結果は次の通りである。

3-1 応急復旧の問題

- ・新建川沿いの道路の舗装 ・新建川の復旧、護岸工事 ・台川の復旧、護岸工事
- ・公園角のカーブミラーの復旧設置 ・第4公園の復旧 ・側溝のふたの整備

3-2 災害復興まちづくり

①確実に獲得したい設備について

- ・新建川の上の工事用道路を市道にして欲しい ・避難所を作って欲しい
- ・集会所前の道路を、台川の向こう側まで、市道にしてほしい（現在は私道）

②実現したいこと

【防災】・防災のための、放送塔の設置（具体的な場所は防災計画による）

- ・防災メール等の防災システムの整備。

【避難経路】・新田さんと横谷さんの家の間に、避難用の橋を架ける。

- ・台川の下流に橋がほしい、避難経路がない ・避難道の整備、確保、2カ所ほしい

【安全な水路の確保】・新建川の安全な水路の整備　・河川に即してフェンスの取り付け

【公園～住みやすい町のために】・第4公園の整備、拡張　（・桜を植え、住民が集える場所にしたい
・電源と街灯を　・グランドゴルフが出来る場所を作る　・舞台を作る）

・ちびっこ広場の整備　（・テーブル、いすの設置　・テラスを作る　・テントを設置する）

【住みやすい町のために】・可部高校までの広い道路にバスを通して欲しい　・街灯整備　・工事用施設附近
一帯に緑地帯を作り、春は新緑、秋は紅葉と潤える場所にしたい　・河川改修用の空き地にベンチを置
き、花を植える　・子供たちが川遊びの出来る、沢がにが生息できる、蛍が飛び交うビオトープ

このように住民からたくさんの要望が提出された。

4. 復興まちづくりプランについて

住民からの要望アンケート結果について、平成26年12月14日に取りまとめ報告と今後の対応について意見交換を行った。さらに、平成27年2月28日には復興まちづくり計画(要望書)の最終確認・相談を新建自治会の役員と土業連絡会で行い、広島市に提出した(写真-2)。

自治会でのアンケートに基づき、土業連絡会で取りまとめた要望書が、ほぼ復興まちづくりプランに反映された(全国的に貴重な実績)。平成28年4月の段階ではこのままで推移すると70%位要望が実現できる予定である。新建自治会の要望書[7項目]と実現内容については次のようにまとめられる(図-1)。

①新建川上流砂防堰堤工事用道路の市道としての存続：相談、要望項目

②地域内の私道の公道化：希望の私道より下流の私道で実現の方向

③防災有線無線等の設置：実現できていないが、自治会で新建カードを作成し、スマートホンで情報の共有化を実施。70世帯に
対応しているが、高齢者には対応できていない。雨量計も併せて自治会でのシステムづくりを実施。

④台川を挟んで避難のための台川への架橋：2箇所のうち1箇所(中央)は実現予定。

⑤公園の早期復旧と拡張：公園の復旧はできたが、拡張は難しい状況。

⑥避難所、集会所を兼ねた安全安心な建物の建設：ちびっこ広場への建設は無理との回答。

⑦河川の危険箇所の改修：現在、河川工事の実施中であり、災害復旧の改修を実施予定。

このように、大規模災害に見舞われた場合、その対応として自治会単位でままとすると災害復旧・復興が早まり、自分達の要望も通りやすくなることを学んだ。常日頃から安全・安心なまちづくりに取り組むことが重要であり、災害時にもそれが反映される。

5. おわりに

広島市の新建自治会では、災害発生後の災害復旧と復興まちづくりを土業連絡会と一緒に早期にまとめたことにより、住民の意見を取り入れた復興まちづくりができた。新建自治会は現在192世帯、503名が生活しているが、災害前の人数には達していないものの、新しく家を建てたり、若い家族も入居するなど、自治会の再建も進んでいる。また、豪雨時の安全対策として雨量計も設置し、それを使ってスマートホンで監視するシステムも住民活動で導入しているが、高齢者がスマートホンを持っていない、使い方もわからない人も多く、それも問題となっている。最近では、若者と老人会が一緒になったイベント等も開催し、災害に備えた対応も実施しているところである。

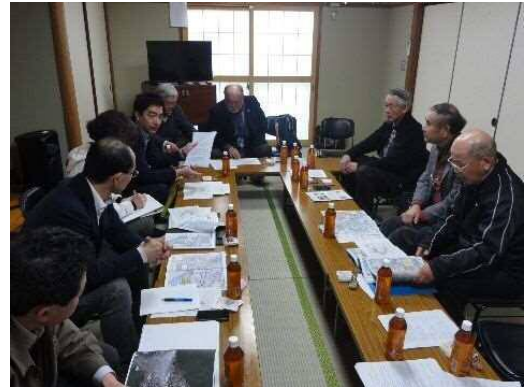


写真-2 自治会と土業の最終打ち合わせ



図-1 可部東地区のまちづくり概要図